

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	1473601100
法人名	株式会社カスタムメディカル研究所
事業所名	グループホーム アカシヤの家
訪問調査日	平成 19 年 9 月 5 日
評価確定日	平成 19 年 10 月 22 日
評価機関名	社会福祉法人神奈川県社会福祉協議会

項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家 族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	1473601100		
法人名	株式会社カスタムメディカル研究所		
事業所名	グループホーム アカシヤの家		
所在地	神奈川県横浜市泉区岡津町2901-1 (電話) 045-810-0228		
評価機関名	社会福祉法人神奈川県社会福祉協議会		
所在地	神奈川県横浜市神奈川区沢渡4-2		
訪問調査日	平成 19年 9月 5日	評価確定日	平成 19年10月22日

【情報提供票より】(平成19年 7月 15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18年 2月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	26 人	常勤 8人, 非常勤 28人, 常勤換算 14.6人	

(2) 建物概要

建物構造	木造2階建て 造り		
	2階建ての	1階 ~	2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(245,000 円)	有りの場合 償却の有無	有
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,067 円		

(4) 利用者の概要(7月 15日現在)

利用者人数	17 名	男性 4 名	女性 13 名
要介護1	2 名	要介護2	5 名
要介護3	5 名	要介護4	3 名
要介護5	2 名	要支援2	0 名
年齢	平均 82 歳	最低 68 歳	最高 97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	岡津クリニック、座間中央病院、湘南中央デンタルクリニック
---------	------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームの周りは緑が多く駅から徒歩8分の住宅地にある。庭に続きホームの畑があり、野菜を育ててみんなで味わっている。
認知症専門医は月2回、歯科医は週1回の往診があり、看護師と24時間電話で連絡が出来る体制となっている。身体機能維持のため、脚を重視した体操を行っている。
車椅子で利用しやすいように居間、廊下などの空間は広めで、1階には機械浴を整備している。
2ユニット合同で家族会を3ヶ月に1回開催し、家族の意見や要望等を聞き、ホームの運営に反映させている。
レクリエーションに、近隣の方が参加するなど、地域との交流をはかっている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	外部評価は今回が始めての受審である。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	全職員で自己評価に取り組み、評価の結果を職員同士で話し合いサービスの質の向上につなげている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	平成19年8月に第1回運営推進会議を利用者の家族、自治会会長、泉区職員などのメンバーで開催した。家族からの問いかけをきっかけとして、自治会に10月から加入することが決定した。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	2ユニット合同で家族会を3ヶ月に1回開催し、意見・希望などを聞いている。意見箱を設置してほしいという要望を反映して、玄関に意見箱を設置した。苦情解決の体制を整備している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	ホーム開所時に内覧会などでホームの啓発を行った。近所の方とは散歩時に挨拶を交わしている。レクリエーションや餅つきの際に地域の協力を得ている。10月から自治会会員となる予定で、ホームをアピールし地域と積極的に交流する意向である。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「認知症とは何かを理解し、家庭に近い介護を志し、主人公は利用者で出来る事は行っていただく」という事を大切に日々サービスの提供を行っている。朝礼時などに地域交流について職員間で話し合っている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝礼、ケアプラン作成時、会議の時などに理念について話し合い職員間で理念を共有しているほか、玄関に理念を掲示している。利用者を人生の先輩として接している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホーム開所時には、地域に理解してもらえるようにパンフレットを配布し、内覧会を開いた。近所の方とは散歩時などに挨拶を交わし、顔なじみの関係となっている。餅つきの時には、近隣の方にせいろを貸してもらうなどの協力を得ている。平成19年10月1日から自治会に加入する予定となっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は評価の意義を職員に周知している。自己評価は全職員で取り組み、自己評価の結果について職員間で話し合った。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	平成19年8月に第1回運営推進会議を、利用者家族、区の職員、町内会長などのメンバーで開催した。会議で利用者家族が思いや願いを語られたことをきっかけに、自治会への加入が10月1日から実現することとなった。また、「ホームは入りにくい雰囲気がある」との意見を受け、玄関先に花を置き入りやすい雰囲気作りの工夫をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホームの状況報告、研修の案内を受けるなど、区高齢者介護保険課の担当者と連携をはかっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問時には、職員が声をかけて暮らしぶりを伝えている。居間などの壁面に利用者のすいか割り、動物園へ花見などのスナップ写真を貼り情報提供をしている。体調不良やけがをした時などには随時電話連絡をしている。お小遣い帳のコピーを毎月郵送し家族からサイン・承認印をもらうことと併せて、利用者の状況を毎月報告している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2ユニット合同で3ヶ月に1回家族会を開き、要望・意見を聞いており、家族会議事録を作成している。家族の要望に応じて、玄関に無記名式の「意見箱」・「言いたい放題記入用紙」を設置している。まだ苦情は寄せられていないが、苦情解決までの体制を整えている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	新しい職員は、経験のある職員と利用者との関わりを観察することから始めて、徐々に利用者に関わるようにしている。出来るだけ継続して働き続けられるように、職員にはストレスなどがある場合は話してほしいと伝えている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	採用時研修は、3～6ヶ月OJTで行っている。研修の案内を掲示している。認知症介護実践者研修や法人が行っている内部研修に参加し、研修内容を朝礼などで報告し、朝礼ノートにも記録して、職員間で研修内容の共有化をはかっている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームのネットワークに加入しており、泉区主催の交流研修会に参加している。グループホーム協会連絡会議があり、情報交換等を行い交流をはかっており、3ヶ月に1回の意見交換会に参加し、バイタル記録のとり方から見える水分摂取量などについて意見交換を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	ホームの利用にあたっては、利用希望者に体験入居やショートステイを体験してもらい、納得したうえでの入居となるシステムをとっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	職員は利用者から昔の歌を習ったり、昔の経験を聞いたりしている。訪問調査時の午前の体操の中で、職員は順番に利用者の名前を「さん」と呼びかけて、個別に体操を誘導し、利用者は呼びかけに応じて、「主人公」となって体操を行っている様子を観察した。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	「私の思いシート」を入居時に作成し、個人記録にファイルして、一人ひとりの思いや意向を職員間で共有している。職員の観察により、あるいは気づきがあった場合には内容の更新も随時行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	アセスメント表を作成し、ケースカンファレンスで家族の要望などを職員間で話し合い、介護計画を作成している。職員は毎日朝礼時に利用者の状態を確認している。		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	通常の介護計画の見直しは、利用者の状況により3～6ヶ月で行っている。利用者の状態を観察し医師と連携を取り、薬の量を減らす事で元気を取り戻された方もいる。状態に変化があった場合は、その都度見直しをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携加算がある。月2回の認知症専門医と週1回の歯科医による往診があり、看護師と24時間電話で連絡が取れるようになっている。事例はないが、ベッドに空きがあれば、ショートステイの利用を可能としている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者のかかりつけ医での受診を支援している。家族の希望で、かかりつけ医から協力医療機関に変更した事例もある。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方については、入居時に家族に説明をしている。かかりつけ医や提携医療機関とその都度連携を取り、全員で方針、体制を共有し、早めに状態を予測して家族に方針を伝えている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	記録などで目に触れる物の場合、固有名詞を使わないようにしている。オムツは他の人の目に触れないように配慮している。人生の先輩としての言葉かけをし、年齢にあった言葉遣いをするよう徹底している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間や朝食など、利用者の意見を尊重して柔軟に対応している。訪問調査時の昼食では、利用者のペースですすめられていた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下ごしらえから盛り付け、下膳、テーブル拭きなど食事の準備や片付けを利用者と職員が一緒に行っている。食事両者が和やかな雰囲気を楽しむようにしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は決まっているが、利用者の希望に沿って楽しく入浴をしてもらうよう支援している。暑い日は、シャワー浴も利用している。身体状況に合わせて機械浴を利用し、機械浴は椅子に座ったままで利用できるようになっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は利用者のやりたい事や好きな事を把握し、草むしりをしたい利用者には、近所の畑で草むしりをしてもらい、食事作りが好きな利用者には餃子を作ってもらい餃子パーティーを行うなど、楽しみのある生活の支援を行っている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望を受け、買い物や理容、好みのものを食べに出かけるなどの外出支援を行っている。訪問調査時の昼食後、職員は利用者優しい雰囲気です「車で出かけよう」と提案していた。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関に鍵を掛けないで見守りをしている。居室から居間への移動が自由に出来るようになっている。近所の人に見守りを依頼している。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練を消防署の協力で行っている。職員は、避難場所を把握し、緊急時に備えている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>管理栄養士が栄養バランスをチェックした献立を使用し、全員の摂食量、水分量の記録をとっている。土、日曜日は「そば」など利用者のリクエストに応じている。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>台所は対面式になっている。居間のテーブルの上には庭に植えてあるひまわりを飾り、居間などの空間は広めで車椅子の移動がスムーズに出来るようになっている。居間には豊のスペースもあり、テレビを見たり自由に過ごせるようになっている。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>家族に、新しいものではなく馴染みのものを持参して欲しいと伝えており、居室にはテレビ、タンス、本、マスコット、家族の写真などが持ち込まれ、その人らしい部屋になっている。</p>		

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム アカシヤの家
(ユニット名)	つきみそう
所在地 (県・市町村名)	神奈川県横浜市泉区岡津町2901-1
記入者名 (管理者)	千葉 ひろ子
記入日	平成 19年 7月 30日

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		自治会加入後は、地域の方々より交流を図るため、ホームへ招き食事会、レクリエーションなどを行いたいと思っています。
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		利用者の散歩での交流から、隣近所の方々よりの親切が多く、事業者や利用者から地域へ何らかの寄与を増やそうと取り組んでいます。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	ご近所の高齢の方が、気軽にホームに遊びにこれるような雰囲気づくりに努めています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	グループホームとしての役割、サービスを見直す機会として捉え、評価を朝礼やカンファレンスの課題に取り上げる努力を重ねています。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今月8月末に向けて準備中です。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	自治会に8月加入予定です。		自治会加入後は、自治会の役員の方々と交流を深め、地域の一員として貢献出来ることを探し出していきます。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	公的な機関が主催する研修に参加し、研修内容を朝礼時報告していきます。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待については、朝礼、カンファレンスなどにより、常に話し合い、徹底に努めています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居者のご家族の方の思いを聞きながら、ホームで出来ることと出来ないことを説明し、納得された時に契約に至っています。</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>日々の生活の中で、入居者の声に耳を傾け、入居者が落ち着いた生活ができるよう、時にはご家族の協力を仰いでいます。</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月1回、入居者の様子とお小遣いの収支報告を郵送でお知らせしています。職員の異動等は、家族会、面会時などでお知らせしています。</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族会などの機会に、要望、提案等、自由に発言していただく場を持ち、サービスの改善に努めています。</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>朝礼、カンファレンスで意見交換をしています。</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>スタッフが足りずに入居者に迷惑をかけないよう、全員で協力し、職員の確保に努めています。</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の異動等があった場合には、馴染みのあるスタッフが介入し、混乱や問題行動が起きないように、十分な配慮を心がけています。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎日朝礼を行い、理念やケアについての話し合いを行っています。研修の案内を掲示し、研修参加を勧めています。	
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同系列のグループホームの研修を行っています。	
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員同士のコミュニケーションを図るために、カンファレンスや話し合いをする時間を設けています。不安を抱えないよう、随時話しを聞く時間を設けています。	
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	スタッフひとりひとりを信頼し、困った時など適切なアドバイスを送り、抱えている不安を取り除くように努めています。	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居時の面接において、十分に時間を取り、入居者様の今抱えている問題点をより聞きだし、これからどの様に生活していきたいか聞き出すようにしています。	
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居時の面接において、十分に時間を取り、抱えている問題点と、どの様にしたいか要望を聞くように努めています。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時、困っている事、どうしたいのかを聞き出し、地域の社会資源の情報を提出します。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ご利用者の要望を把握して、ご家族とも相談しながらきめ細かいケアについて、常にスタッフ同士がカンファレンスを行いながら安心できるよう努めています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者の知識や経験を尊重し、入居者の得意な分野を活かし、ホーム内での生活で協力していただいています。		食器洗い、配膳、洗濯物干し、洗濯物片付け、掃除などをスタッフと一緒に行っていただいています。
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会に来ていただいた時、ご家族と入居者について話す機会をその都度設け、ケアのヒントにつなげていきます。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族会を通し、認知症の理解を深めていただき、面会が遠ざかっている場合にはお手紙、電話などにより、面会に来ていただけるように働きかけています。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	急激な環境の変化を避けつつ、新たな利用者相互の接近による交流を通じて、新たな面を引き出していけるよう努めています。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者同士で楽しい時間を過ごされている時は、その雰囲気が保たれるようにスタッフが見守りを行い、会話の行き違いなどで起こる言い争いなどのトラブル時には職員が介入し、大きなトラブルにならないよう解決しています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	<p>関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている</p>	<p>諸般の事情によりやむなく退居に至った場合でも、入居者のニーズにかなった行き先やサービスの提供を行っています。またご家族とも連絡し、その後の経緯も把握するよう努めています。</p>		<p>退去後もご本人が、その人らしく生活できるように、必要に応じて情報提供を行う。</p>
<p>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p>				
<p>1. 一人ひとりの把握</p>				
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>本人の意思を確認し、尊重できるよう努めています。</p>		
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入居時の面接、面会時にご家族から情報を得ています。</p>		
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>毎日入居者の食事量、服薬チェック、排泄チェック、バイタルチェック、行動記録、月1回体重チェックを行い、心身状態の総合的な把握に努めています。</p>		
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>				
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>毎日朝礼にて入居者の状態を把握し、変化時にはケアの見直しをしています。</p>		
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>3ヶ月毎に更新、状況に合わせ、ケアプランの見直しをしています。</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者個別の介護記録と申し送り事項、毎朝の朝礼での情報の共有化を行い、実践に活かし、その結果を介護計画の見直しに結びつけています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	系列病院から、月2回認知症専門医の先生に往診をしていただき、意見、アドバイスを受けています。系列病院への外来受診、入院等。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	消防訓練への参加や、地域で行われている美術展を見に行きます。ボランティアの方々に来所していただき、民謡、童謡などを楽しんでいただいています。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他のサービスは利用していません。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	8月末に運営推進委員会開催を予定しており、センター職員に委員を依頼し、今後協力していくこととします。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	肉体的な受診及び精神的な受診を定期的に設定して、これまでのかかりつけ医の流れを受け継いで、適切な医療を受けられる体制を備えています。他にデンタル週1回往診。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	系列病院から月2回、認知症専門医師月2回往診実施、薬の処方を受け、細やかなアドバイス、相談をし、適切なサービスを提供しています。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	利用者をよく知る看護職員との24時間ホットラインを設けており、日常の健康管理や医療活用の支援をしています。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院の際、主治医、ご家族、ケースワーカーと話し合い、通院が長引かないように3週間を目途に連絡を蜜にしています。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方について、利用者の入居時から本人やご家族ならびにかかり付け医等とその都度話し合い、本人の意向を尊重し、全員で方針及び態勢を共有しています。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	変化のポイントを毎朝の朝礼で確認し、出来ること、出来ないことを検討しながら、かかり付け医の支援を取り付けて、今後の変化に備えています。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	すでに介護サービスを受けている場合は、先方のケアマネからケアプランや生活歴、直近の様子等についての情報入手し、さらにご家族から話を伺って、新しい生活への要望、自宅での生活環境を把握し、住み替えが可能な限りスムーズに運ぶよう心掛けています。又、ご家族のいない入居者については、福祉課の担当者や病院の医師などから情報を集め、入居者本人が自然に過ごせる環境を整えています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>入居者ひとりひとりを人生の先輩として敬い、傷つけてしまうような言葉掛けや対応をしないよう、心掛けて支援しています。問題が起き、記録に記す場合は、氏名がわからないよう書いています。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している</p>	<p>入居者本人がどのような要望があるのか意向を確かめて、ご家族とも話しながら本人の意向に沿うよう支援しています。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>常に主人公は入居者であることをモットーに個々のペースやスタイルを尊重しています。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>入居者自身の選択により、日々の身だしなみや整容を決定しています。あまりにも見苦しかったり、同じ服装が続いたりすればスタッフが整容したり、服装を決めることもあります。2ヶ月に1度訪問理美容を利用し、要望があれば馴染みの美容院へ行けるよう支援しています。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>日常生活の中で、入居者の食べたい食事を会話の中で見つけ出し、食事の楽しみにつなげています。又、入居者と職員と一緒に、食事の配膳、片付けなどを行っています。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>ご家族の要望、確認のもと、夕食後にご本人の希望がある時、お酒の量を決め飲酒していただいています。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	入居者ひとりひとりの排泄パターンを把握し、支援を行うときは本人の気持ちを考え、傷つける事のないよう支援しています。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者の入浴日での体調を確認し、本人の希望に合わせて入浴していただいています。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	外出、レクリエーション後などは、個々の疲れ具合により休息していただきます。安眠の出来ない利用者について、本来のリズム作りを支援し、医師と相談し薬の処方をしていただいています。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ひとりひとりの生活観を参考にして、それぞれの入居者に合った仕事を分配していただいています。又、様々な趣味活動の場を提供して、生き生きとした生活を送れるよう配慮しています。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が出来る方がいないので、ご家族よりお小遣いを預かり対処しています。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	個々の希望に合わせて、戸外に出掛けられるように支援しています。歩行困難の方は、車椅子や車での外出をし、負担のかからないように支援しています。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	日常生活の会話で行きたい場所をスタッフ、入居者で話し合い、行く場所を決めて外出しています。		毎月1回、大型商業施設やフラワーセンター、公園など、ドライブを兼ねて行っています。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が希望すれば、いつでも自由に電話を掛けていただいています。携帯電話を持っている方もいます。ポストまで歩行可能な方は、スタッフ同行で投函しに行くようにしています。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご家族や知人等が気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう、訪問者の得意な分野での協力(詩吟など)をお願いしています。又、お孫さん連れでも気兼ねなくすごせるよう支援しています。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	車椅子乗車の方は、ずっと座りっぱなしにならないように立位をとったり、ソファーへの移動をしていただいています。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関には鍵をかけません。利用者が出掛けるときは後からついて行き、見守り、時には声かけをし、本人の意思を尊重しています。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	ドアを閉めても、小窓から中の様子が見えるようにしています。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	基本的には、本人やご家族の承諾を得た上で、刃物類は一括して事務所で保管しています。その他の物については、入居者の状況に応じて自由を重んじながら、適且安全を確保しています。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	配薬ケースを朝・昼・夜用に分け、各々のケースに服用される方の名前を記入してあります。(誰が薬をセットしても間違わないように)誤配薬防止。窒息、食べ物をのどにつまらせた場合の対処方法を知り、スタッフに伝えあっています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救急蘇生講習の受講。緊急マニュアルを目のつくところに提示。救急車対応時は、同じ職員が同行するのではなく、皆が経験できるようにしています。		朝礼時、緊急時の対応の再確認を行う。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練の実施。 自治会加入後に計画を予定しています。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	現状を把握し、現状から推測されるリスクを、面会時、家族会の機会に説明をしています。		家族との話し合い、現状説明等の記録を残すようにする。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルチェックばかりではなく、職員の明るい声掛けにより、ひとりひとりの体調の変化や異変の早期発見に努め、この情報の伝達、指令系統の確立を毎日の朝礼で行っています。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員で薬の服薬シートを共有しています。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	介護記録とは別に排便チェック表をひとりひとり記録し、便秘の予防と対応に取り組んでいます。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	全職員が口腔ケアの必要性を理解した上で、声掛けのみの人、半介助、全介助の方と、ひとりひとりに合ったケアをしています。口腔ケアは専門医の指導を仰いでいます。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	きざみ食、トロミ粉等と利用し、食事をしていただいています。水分量に配慮し、コップ1杯飲みきれていない時は、吸い飲み等を利用し、摂取していただいています。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	嘔吐があった場合、処理する際はスタッフ1人だけが係り、周りへの感染を防ぐよう心掛けています。		湿疹が見られた場合は、早急に医師に相談し、悪化するのを未前に防ぐよう取り組みます。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	塩素系(ハイター)の消毒をこまめに行い、食器は乾燥機で十分に熱を加え乾燥している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周囲には花を置き、温かな雰囲気作りをしています。ご家族がいつでも来られるように、広い駐車場を確保しています。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間の壁に季節を感じていただけるような飾りつけをしたり、スナップ写真を飾り、入居者に楽しんでいただけるようにしています。又、ご家族にも近況報告として、いつでも見ていただけるようにしています。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間は畳で、長いソファを置き、1人で新聞や週刊誌を読んだり、テレビを見たり出来るようにしています。又、庭にベンチを置き、食べたり出来るようにしています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、馴染みの物、タンス、ベッドなど持ち込まれ、自宅であるという気持ちで生活していただけるように支援しています。		居室スペースに限りがあるので、本人、家族と話し合い、居心地良く、安全を考えた居室作りをしている。
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	居室、フローアークleaning時は窓を開け、ホコリや汚れ、不快な臭いが残らないよう気を付けています。冷暖房温度調整は、フローアーク、居室内と温度差のないよう、適温になっているか常に気を配りながら行っています。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者個々の状態に合わせ、車椅子やシルバーカー、車輪の付いている椅子などを使用するよう工夫しています。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室ドア横に表札を作成し付けることにより、入居者個々が本人の居室だと認識出来るようにしています。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭へ出て体操をしたり、行事、レクリエーション、季節の野菜の栽培、収穫などを行い、他フローアークの入居者やご家族との交流を図っています。		

・サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		ほぼ全ての利用者の
			利用者の2/3くらいの
			利用者の1/3くらいの
			ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		毎日ある
			数日に1回程度ある
			たまにある
			ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています		ほぼ全ての家族と
			家族の2/3くらいと
			家族の1/3くらいと
			ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="checkbox"/>	ほぼ毎日のように
		<input type="checkbox"/>	数日に1回程度
		<input type="checkbox"/>	たまに
		<input type="checkbox"/>	ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="checkbox"/>	大いに増えている
		<input type="checkbox"/>	少しずつ増えている
		<input type="checkbox"/>	あまり増えていない
		<input type="checkbox"/>	全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="checkbox"/>	ほぼ全ての職員が
		<input type="checkbox"/>	職員の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	職員の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="checkbox"/>	ほぼ全ての利用者が
		<input type="checkbox"/>	利用者の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	利用者の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="checkbox"/>	ほぼ全ての家族等が
		<input type="checkbox"/>	家族等の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	家族等の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)
その人らしく、明るく元気で快適な生活を送れる介護を目指しています。

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム アカシヤの家
(ユニット名)	ひなげし
所在地 (県・市町村名)	神奈川県横浜市泉区岡津町2901-1
記入者名 (管理者)	千葉 ひろ子
記入日	平成 19年 7月 15日

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		自治会加入後は、地域の方々より交流を図るため、ホームへ招き食事会、レクリエーションなどを行いたいと思っています。
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		利用者の散歩での交流から、隣近所の方々よりの親切が多く、事業者や利用者から地域へ何らかの寄与を増やそうと取り組んでいます。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	ご近所の高齢の方が、気軽にホームに遊びにこれるような雰囲気づくりに努めています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	グループホームとしての役割、サービスを見直す機会として捉え、評価を朝礼やカンファレンスの課題に取り上げる努力を重ねています。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今月8月末に向けて準備中です。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	自治会に8月加入予定です。		自治会加入後は、自治会の役員の方々と交流を深め、地域の一員として貢献出来ることを探し出していきます。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	公的な機関が主催する研修に参加し、研修内容を朝礼時報告していきます。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待については、朝礼、カンファレンスなどにより、常に話し合い、徹底に努めています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居者様とご家族の方の思いを聞きながら、ホームで出来ることと出来ないことを説明し、納得された時に契約に至っています。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>日々の生活の中で、入居者の声に耳を傾け、入居者様が落ち着いた生活ができるよう、時にはご家族の協力を仰いでいます。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月1回、入居者の様子とお小遣いの収支報告を郵送でお知らせしています。職員の異動等は、家族会、面会時などでお知らせしています。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族会などの機会に、要望、提案等、自由に発言していただく場を持ち、サービスの改善に努めています。</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>朝礼、カンファレンスで意見交換をしています。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>スタッフが足りずに入居者に迷惑をかけないよう、全員で協力し、職員の確保に努めています。</p>	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の異動等があった場合には、馴染みのあるスタッフが介入し、混乱や問題行動が起きないように、十分な配慮を心がけています。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎日朝礼を行い、理念やケアについての話し合いを行っています。研修の案内を掲示し、研修参加を勧めています。	
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同系列のグループホームの研修を行っています。	
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員同士のコミュニケーションを図るために、カンファレンスや話し合いをする時間を設けています。不安を抱えないよう、随時話しを聞く時間を設けています。	
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	スタッフひとりひとりを信頼し、困った時など適切なアドバイスを送り、抱えている不安を取り除くように努めています。	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居時の面接において、十分に時間を取り、入居者様の今抱えている問題点をより聞きだし、これからどの様に生活していきたいか聞き出すようにしています。	
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居時の面接において、十分に時間を取り、抱えている問題点と、どの様にしたいか要望を聞くように努めています。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時、困っている事、どうしたいのかを聞き出し、地域の社会資源の情報を提出します。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気になら徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ご利用者の要望を把握して、ご家族とも相談しながらきめ細かいケアについて、常にスタッフ同士がカンファレンスを行いながら安心できるよう努めています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者の人生の先輩としての経験、知識を尊重し、新たな活動を見つけ出しています。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時にご家族の方から昔の様子などを聞いて、ケアのサービスをしています。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族会を通し、認知症の理解を深めていただき、面会が遠ざかっている場合にはお手紙、電話などにより、面会に来ていただけるように働きかけています。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	急激な環境の変化を避けつつ、新たな利用者相互の接近による交流を通じて、新たな面を引き出していけるよう努めています。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	ご利用者が自分の殻に閉じこもらず、他の入居者への関心を引き出すような場(食事、レクリエーション等)を積極的に設けています。入居者同士が談話している時は、職員は見守りし、いい争いなどトラブル時には職員が介入し、入居者がくつろげるよう努めています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	<p>関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている</p>	<p>諸般の事情によりやむなく退居に至った場合でも、入居者のニーズにかなった行き先やサービスの提供を行っています。またご家族とも連絡し、その後の経緯も把握するよう努めています。</p>		<p>退去後もご本人が、その人らしく生活できるように、必要に応じて情報提供を行う。</p>
<p>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p>				
<p>1. 一人ひとりの把握</p>				
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>本人の意思を確認し、尊重できるよう努めています。</p>		
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入居時の面接、面会時にご家族から情報を得ています。</p>		
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>毎日のバイタルチェック(体温、血圧、脈拍数)のみでなく、時系列の行動記録、食事状態記録を比較することにより、体調及び心身状態を総合的に把握するようにしています。</p>		
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>				
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>毎日朝礼にて入居者の状態を把握し、変化時にはケアの見直しをしています。</p>		
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>3ヶ月毎に更新、状況に合わせ、ケアプランの見直しをしています。</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者個別の介護記録と申し送り事項、毎朝の朝礼での情報の共有化を行い、実践に活かし、その結果を介護計画の見直しに結びつけています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	系列病院から、月2回認知症専門医の先生に往診をしていただき、意見、アドバイスを受けています。系列病院への外来受診、入院等。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	消防訓練への参加や、地域で行われている美術展を見に行きます。ボランティアの方々に来所していただき、民謡、童謡などを楽しんでいただいています。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他のサービスは利用していません。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	8月末に運営推進委員会開催を予定しており、センター職員に委員を依頼し、今後協力していくこととします。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	肉体的な受診及び精神的な受診を定期的に設定して、これまでのかかりつけ医の流れを受け継いで、適切な医療を受けられる体制を備えています。他にデンタル週1回往診。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	系列病院から月2回、認知症専門医師月2回往診実施、薬の処方を受け、細やかなアドバイス、相談をし、適切なサービスを提供しています。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	利用者をよく知る看護職員との24時間ホットラインを設けており、日常の健康管理や医療活用の支援をしています。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院の際、主治医、ご家族、ケースワーカーと話し合い、通院が長引かないように3週間を目途に連絡を蜜にしています。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方について、利用者の入居時から本人やご家族ならびにかかり付け医等とその都度話し合い、本人の意向を尊重し、全員で方針及び態勢を共有しています。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	変化のポイントを毎朝の朝礼で確認し、出来ること、出来ないことを検討しながら、かかり付け医の支援を取り付けて、今後の変化に備えています。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	すでに介護サービスを受けている場合は、先方のケアマネからケアプランや生活歴、直近の様子等についての情報を入手し、さらにご家族から話を伺って、新しい生活への要望、自宅での生活環境を把握し、住み替えが可能な限りスムーズに運ぶよう心掛けています。又、ご家族のいない入居者については、福祉課の担当者や病院の医師などから情報を集め、入居者本人が自然に過ごせる環境を整えています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>記録の際、トラブル等を記す時は、相手方の固有名詞は使用しないようにしています。必要な情報は朝礼時にスタッフへ送り、情報の共有が出来るようにしています。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>本人が何をしたいのか意向を確かめて、その意向に沿うように支援しています。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>常に主人公は入居者であることをモットーに個々のペースやスタイルを尊重しています。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>歩行や排泄の面で、美容院への外出が難しい方のために、訪問理美容を利用しています。ご本人やご家族の希望を伝え、カット、カラーとさせていただきます。その他の日にカラー等を望まれる方は、理美容院にも協力していただき、行けるようにしています。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>義歯が入ってなく、そしゃくが困難な方は、食材を小さく刻み食事をしていただいています。自立している方はほとんどいませんが、食前食後のテーブル拭きはご本人が出来る状態の時には行ってもらっています。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>飲酒、喫煙をされる方はいません。糖尿病のために制限も必要なので、要求通りにおやつを差し上げることが難しいのですが、3時のおやつ、お茶の時間にご希望に沿うようにしています。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	介護記録から排泄パターンと習慣を把握して、気持ちよく生活出来るように支援しています。排泄のチェックシートを作って活用しています。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ひとりひとりの体調(バイタルチェック、体調具合、天候、失禁等)に合わせて支援しています。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	外出、レクリエーション後などは、個々の疲れ具合により休息していただきます。安眠の出来ない利用者について、本来のリズム作りを支援し、医師と相談し薬の処方をしていただいています。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ひとりひとりの生活観を参考にして、それぞれの入居者に合った仕事を分配していただいています。又、様々な趣味活動の場を提供して、生き生きとした生活を送れるよう配慮しています。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が出来る方がいないので、ご家族よりお小遣いを預かり対処しています。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	個々の希望に合わせ、戸外に出掛けられるように支援しています。歩行困難の方は、車椅子や車で外出をし、負担のかからないように支援しています。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	計画をしています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が希望すれば、いつでも自由に電話を掛けていただいています。携帯電話を持っている方もいます。ポストまで歩行可能な方は、スタッフ同行で投函しに行くようにしています。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご家族や知人等が気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう、訪問者の得意な分野での協力(詩吟など)をお願いしています。又、お孫さん連れでも気兼ねなくすごせるよう支援しています。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	車椅子乗車の方は、ずっと座りっぱなしにならないように立位をとったり、ソファーへの移動をしていただいています。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関には鍵をかけません。利用者が出掛けるときは後からついて行き、見守り、時には声かけをし、本人の意思を尊重しています。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	ドアを閉めても、小窓から中の様子が見えるようにしています。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	基本的には、本人やご家族の承諾を得た上で、刃物類は一括して事務所で保管しています。その他の物については、入居者の状況に応じて自由を重んじながら、適且安全を確保しています。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	配薬ケースを朝・昼・夜用に分け、各々のケースに服用される方の名前を記入してあります。(誰が薬をセットしても間違わないように)誤配薬防止。窒息、食べ物などをのどにつまらせた場合の対処方法を知り、スタッフに伝えあっています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救急蘇生講習の受講。緊急マニュアルを目のつくところに提示。救急車対応時は、同じ職員が同行するのではなく、皆が経験できるようにしています。		朝礼時、緊急時の対応の再確認を行う。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練の実施。 自治会加入後に計画を予定しています。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	現状を把握し、現状から推測されるリスクを、面会時、家族会の機会に説明をしています。		家族との話し合い、現状説明等の記録を残すようにする。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルチェックばかりではなく、職員の明るい声掛けにより、ひとりひとりの体調の変化や異変の早期発見に努め、この情報の伝達、指令系統の確立を毎日の朝礼で行っています。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員で薬の服薬シートを共有しています。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	介護記録とは別に排便チェック表をひとりひとり記録し、便秘の予防と対応に取り組んでいます。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	全職員が口腔ケアの必要性を理解した上で、声掛けのみの人、半介助、全介助の方と、ひとりひとりに合ったケアをしています。口腔ケアは専門医の指導を仰いでいます。		歯ブラシのチェック、コップの清潔を保ち、口腔洗浄液なども使用する。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	きざみ食、トロミ粉等と利用し、食事をしていただいています。水分量に配慮し、コップ1杯飲みきれていない時は、吸い飲み等を利用し、摂取していただいています。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	嘔吐があった場合、処理する際はスタッフ1人だけが係り、周りへの感染を防ぐよう心掛けています。		湿疹が見られた場合は、早急に医師に相談し、悪化するのを未前に防ぐよう取り組む。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	塩素系(ハイター)の消毒をこまめに行い、食器は乾燥機で十分に熱を加え乾燥している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周囲には花を置き、温かな雰囲気作りをしています。ご家族がいつでも来られるように、広い駐車場を確保しています。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間の壁に季節を感じていただけるような飾りつけをしたり、スナップ写真を飾り、入居者に楽しんでいただけるようにしています。又、ご家族にも近況報告として、いつでも見ていただけるようにしています。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間は畳で、長いソファを置き、1人で新聞や週刊誌を読んだり、テレビを見たり出来るようにしています。又、庭にベンチを置き、食べたり出来るようにしています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、馴染みの物、タンス、ベッドなど持ち込まれ、自宅であるという気持ちで生活していただけるように支援しています。		居室スペースに限りがあるので、本人、家族と話し合い、居心地良く、安全を考えた居室作りをしている。
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎朝、全居室の窓を開け、風を通して換気しています。冷房の苦手な方は、空調の風があまり当たらない席へ座っていただいています。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	目の不自由な方には、ご自分の部屋やトイレの手すりが触って確認出来るように配慮しています。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	自己の部屋が認識出来るように、部屋を間違えやすい方の居室は表札を目の高さにしたり、ドアに目印をつけるなどしています。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭へ出て体操をしたり、行事、レクリエーション、季節の野菜の栽培、収穫などを行い、他フロアーの入居者やご家族との交流を図っています。		

・サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		ほぼ全ての利用者の
			利用者の2/3くらいの
			利用者の1/3くらいの
			ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		毎日ある
			数日に1回程度ある
			たまにある
			ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています		ほぼ全ての家族と
			家族の2/3くらいと
			家族の1/3くらいと
			ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="checkbox"/>	ほぼ毎日のように
		<input type="checkbox"/>	数日に1回程度
		<input type="checkbox"/>	たまに
		<input type="checkbox"/>	ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="checkbox"/>	大いに増えている
		<input type="checkbox"/>	少しずつ増えている
		<input type="checkbox"/>	あまり増えていない
		<input type="checkbox"/>	全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="checkbox"/>	ほぼ全ての職員が
		<input type="checkbox"/>	職員の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	職員の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="checkbox"/>	ほぼ全ての利用者が
		<input type="checkbox"/>	利用者の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	利用者の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="checkbox"/>	ほぼ全ての家族等が
		<input type="checkbox"/>	家族等の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	家族等の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)
その人らしく、明るく元気で快適な生活を送れる介護を目指しています。

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム アカシヤの家
(ユニット名)	つきみそう
所在地 (県・市町村名)	神奈川県横浜市泉区岡津町2901-1
記入者名 (管理者)	千葉 ひろ子
記入日	平成 19年 7月 30日

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		自治会加入後は、地域の方々とより交流を図るため、ホームへ招き食事会、レクリエーションなどを行いたいと思っています。
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		利用者の散歩での交流から、隣近所の方々よりの親切が多く、事業者や利用者から地域へ何らかの寄与を増やそうと取り組んでいます。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	ご近所の高齢の方が、気軽にホームに遊びにこれるような雰囲気づくりに努めています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	グループホームとしての役割、サービスを見直す機会として捉え、評価を朝礼やカンファレンスの課題に取り上げる努力を重ねています。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今月8月末に向けて準備中です。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	自治会に8月加入予定です。		自治会加入後は、自治会の役員の方々と交流を深め、地域の一員として貢献出来ることを探し出していきます。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	公的な機関が主催する研修に参加し、研修内容を朝礼時報告していきます。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待については、朝礼、カンファレンスなどにより、常に話し合い、徹底に努めています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居者のご家族の方の思いを聞きながら、ホームで出来ることと出来ないことを説明し、納得された時に契約に至っています。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>日々の生活の中で、入居者の声に耳を傾け、入居者が落ち着いた生活ができるよう、時にはご家族の協力を仰いでいます。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月1回、入居者の様子とお小遣いの収支報告を郵送でお知らせしています。職員の異動等は、家族会、面会時などでお知らせしています。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族会などの機会に、要望、提案等、自由に発言していただく場を持ち、サービスの改善に努めています。</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>朝礼、カンファレンスで意見交換をしています。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>スタッフが足りずに入居者に迷惑をかけないよう、全員で協力し、職員の確保に努めています。</p>	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の異動等があった場合には、馴染みのあるスタッフが介入し、混乱や問題行動が起きないように、十分な配慮を心がけています。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎日朝礼を行い、理念やケアについての話し合いを行っています。研修の案内を掲示し、研修参加を勧めています。	
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同系列のグループホームの研修を行っています。	
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員同士のコミュニケーションを図るために、カンファレンスや話し合いをする時間を設けています。不安を抱えないよう、随時話しを聞く時間を設けています。	
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	スタッフひとりひとりを信頼し、困った時など適切なアドバイスを送り、抱えている不安を取り除くように努めています。	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居時の面接において、十分に時間を取り、入居者様の今抱えている問題点をより聞きだし、これからどの様に生活していきたいか聞き出すようにしています。	
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居時の面接において、十分に時間を取り、抱えている問題点と、どの様にしたいか要望を聞くように努めています。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時、困っている事、どうしたいのかを聞き出し、地域の社会資源の情報を提出します。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ご利用者の要望を把握して、ご家族とも相談しながらきめ細かいケアについて、常にスタッフ同士がカンファレンスを行いながら安心できるよう努めています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者の知識や経験を尊重し、入居者の得意な分野を活かし、ホーム内での生活で協力していただいています。		食器洗い、配膳、洗濯物干し、洗濯物片付け、掃除などをスタッフと一緒に行っていただいています。
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会に来ていただいた時、ご家族と入居者について話す機会をその都度設け、ケアのヒントにつなげていきます。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族会を通し、認知症の理解を深めていただき、面会が遠ざかっている場合にはお手紙、電話などにより、面会に来ていただけるように働きかけています。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	急激な環境の変化を避けつつ、新たな利用者相互の接近による交流を通じて、新たな面を引き出していけるよう努めています。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者同士で楽しい時間を過ごされている時は、その雰囲気が保たれるようにスタッフが見守りを行い、会話の行き違いなどで起こる言い争いなどのトラブル時には職員が介入し、大きなトラブルにならないよう解決しています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	諸般の事情によりやむなく退居に至った場合でも、入居者のニーズにかなった行き先やサービスの提供を行っています。またご家族とも連絡し、その後の経緯も把握するよう努めています。		退去後もご本人が、その人らしく生活できるように、必要に応じて情報提供を行う。
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意思を確認し、尊重できるよう努めています。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の面接、面会時にご家族から情報を得ています。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎日入居者の食事量、服薬チェック、排泄チェック、バイタルチェック、行動記録、月1回体重チェックを行い、心身状態の総合的な把握に努めています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎日朝礼にて入居者の状態を把握し、変化時にはケアの見直しをしています。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎に更新、状況に合わせ、ケアプランの見直しをしています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者個別の介護記録と申し送り事項、毎朝の朝礼での情報の共有化を行い、実践に活かし、その結果を介護計画の見直しに結びつけています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	系列病院から、月2回認知症専門医の先生に往診をしていただき、意見、アドバイスを受けています。系列病院への外来受診、入院等。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	消防訓練への参加や、地域で行われている美術展を見に行きます。ボランティアの方々に来所していただき、民謡、童謡などを楽しんでいただいています。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他のサービスは利用していません。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	8月末に運営推進委員会開催を予定しており、センター職員に委員を依頼し、今後協力していくこととします。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	肉体的な受診及び精神的な受診を定期的に設定して、これまでのかかりつけ医の流れを受け継いで、適切な医療を受けられる体制を備えています。他にデンタル週1回往診。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	系列病院から月2回、認知症専門医師月2回往診実施、薬の処方を受け、細やかなアドバイス、相談をし、適切なサービスを提供しています。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	利用者をよく知る看護職員との24時間ホットラインを設けており、日常の健康管理や医療活用の支援をしています。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院の際、主治医、ご家族、ケースワーカーと話し合い、通院が長引かないように3週間を目途に連絡を蜜にしています。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方について、利用者の入居時から本人やご家族ならびにかかりつけ医等とその都度話し合い、本人の意向を尊重し、全員で方針及び態勢を共有しています。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	変化のポイントを毎朝の朝礼で確認し、出来ること、出来ないことを検討しながら、かかりつけ医の支援を取り付けて、今後の変化に備えています。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	すでに介護サービスを受けている場合は、先方のケアマネからケアプランや生活歴、直近の様子等についての情報入手し、さらにご家族から話を伺って、新しい生活への要望、自宅での生活環境を把握し、住み替えが可能な限りスムーズに運ぶよう心掛けています。又、ご家族のいない入居者については、福祉課の担当者や病院の医師などから情報を集め、入居者本人が自然に過ごせる環境を整えています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>入居者ひとりひとりを人生の先輩として敬い、傷つけてしまうような言葉掛けや対応をしないよう、心掛けて支援しています。問題が起き、記録に記す場合は、氏名がわからないよう書いています。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している</p>	<p>入居者本人がどのような要望があるのか意向を確かめて、ご家族とも話しながら本人の意向に沿うよう支援しています。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>常に主人公は入居者であることをモットーに個々のペースやスタイルを尊重しています。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>入居者自身の選択により、日々の身だしなみや整容を決定しています。あまりにも見苦しかったり、同じ服装が続いたりすればスタッフが整容したり、服装を決めることもあります。2ヶ月に1度訪問理美容を利用し、要望があれば馴染みの美容院へ行けるよう支援しています。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>日常生活の中で、入居者の食べたい食事を会話の中で見つけ出し、食事の楽しみにつなげています。又、入居者と職員と一緒に、食事の配膳、片付けなどを行っています。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>ご家族の要望、確認のもと、夕食後にご本人の希望がある時、お酒の量を決め飲酒していただいています。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	入居者ひとりひとりの排泄パターンを把握し、支援を行うときは本人の気持ちを考え、傷つける事のないよう支援しています。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者の入浴日での体調を確認し、本人の希望に合わせて入浴していただいています。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	外出、レクリエーション後などは、個々の疲れ具合により休息していただきます。安眠の出来ない利用者について、本来のリズム作りを支援し、医師と相談し薬の処方をしていただいています。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ひとりひとりの生活観を参考にして、それぞれの入居者に合った仕事を分配していただいています。又、様々な趣味活動の場を提供して、生き生きとした生活を送れるよう配慮しています。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が出来る方がいないので、ご家族よりお小遣いを預かり対処しています。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	個々の希望に合わせて、戸外に出掛けられるように支援しています。歩行困難の方は、車椅子や車での外出をし、負担のかからないように支援しています。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	日常生活の会話で行きたい場所をスタッフ、入居者で話し合い、行く場所を決めて外出しています。		毎月1回、大型商業施設やフラワーセンター、公園など、ドライブを兼ねて行っています。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が希望すれば、いつでも自由に電話を掛けていただいています。携帯電話を持っている方もいます。ポストまで歩行可能な方は、スタッフ同行で投函しに行くようにしています。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご家族や知人等が気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう、訪問者の得意な分野での協力(詩吟など)をお願いしています。又、お孫さん連れでも気兼ねなくすごせるよう支援しています。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	車椅子乗車の方は、ずっと座りっぱなしにならないように立位をとったり、ソファーへの移動をしていただいています。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関には鍵をかけません。利用者が出掛けるときは後からついて行き、見守り、時には声かけをし、本人の意思を尊重しています。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	ドアを閉めても、小窓から中の様子が見えるようにしています。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	基本的には、本人やご家族の承諾を得た上で、刃物類は一括して事務所で保管しています。その他の物については、入居者の状況に応じて自由を重んじながら、適且安全を確保しています。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	配薬ケースを朝・昼・夜用に分け、各々のケースに服用される方の名前を記入してあります。(誰が薬をセットしても間違わないように)誤配薬防止。窒息、食べ物などをのどにつまらせた場合の対処方法を知り、スタッフに伝えあっています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救急蘇生講習の受講。緊急マニュアルを目のつくところに提示。救急車対応時は、同じ職員が同行するのではなく、皆が経験できるようにしています。		朝礼時、緊急時の対応の再確認を行う。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練の実施。 自治会加入後に計画を予定しています。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	現状を把握し、現状から推測されるリスクを、面会時、家族会の機会に説明をしています。		家族との話し合い、現状説明等の記録を残すようにする。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルチェックばかりではなく、職員の明るい声掛けにより、ひとりひとりの体調の変化や異変の早期発見に努め、この情報の伝達、指令系統の確立を毎日の朝礼で行っています。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員で薬の服薬シートを共有しています。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	介護記録とは別に排便チェック表をひとりひとり記録し、便秘の予防と対応に取り組んでいます。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	全職員が口腔ケアの必要性を理解した上で、声掛けのみの人、半介助、全介助の方と、ひとりひとりに合ったケアをしています。口腔ケアは専門医の指導を仰いでいます。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	きざみ食、トロミ粉等と利用し、食事をしていただいています。水分量に配慮し、コップ1杯飲みきれていない時は、吸い飲み等を利用し、摂取していただいています。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	嘔吐があった場合、処理する際はスタッフ1人だけが係り、周りへの感染を防ぐよう心掛けています。		湿疹が見られた場合は、早急に医師に相談し、悪化するのを未前に防ぐよう取り組みます。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	塩素系(ハイター)の消毒をこまめに行い、食器は乾燥機で十分に熱を加え乾燥している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周囲には花を置き、温かな雰囲気作りをしています。ご家族がいつでも来られるように、広い駐車場を確保しています。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間の壁に季節を感じていただけるような飾りつけをしたり、スナップ写真を飾り、入居者に楽しんでいただけるようにしています。又、ご家族にも近況報告として、いつでも見ていただけるようにしています。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間は畳で、長いソファを置き、1人で新聞や週刊誌を読んだり、テレビを見たり出来るようにしています。又、庭にベンチを置き、食べたり出来るようにしています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、馴染みの物、タンス、ベッドなど持ち込まれ、自宅であるという気持ちで生活していただけるように支援しています。		居室スペースに限りがあるので、本人、家族と話し合い、居心地良く、安全を考えた居室作りをしている。
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	居室、フローアークleaning時は窓を開け、ホコリや汚れ、不快な臭いが残らないよう気を付けています。冷暖房温度調整は、フローアーク、居室内と温度差のないよう、適温になっているか常に気を配りながら行っています。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者個々の状態に合わせ、車椅子やシルバーカー、車輪の付いている椅子などを使用するよう工夫しています。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室ドア横に表札を作成し付けることにより、入居者個々が本人の居室だと認識出来るようにしています。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭へ出て体操をしたり、行事、レクリエーション、季節の野菜の栽培、収穫などを行い、他フローアークの入居者やご家族との交流を図っています。		

・サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		ほぼ全ての利用者の
			利用者の2/3くらいの
			利用者の1/3くらいの
			ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		毎日ある
			数日に1回程度ある
			たまにある
			ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています		ほぼ全ての家族と
			家族の2/3くらいと
			家族の1/3くらいと
			ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="checkbox"/>	ほぼ毎日のように
		<input type="checkbox"/>	数日に1回程度
		<input type="checkbox"/>	たまに
		<input type="checkbox"/>	ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="checkbox"/>	大いに増えている
		<input type="checkbox"/>	少しずつ増えている
		<input type="checkbox"/>	あまり増えていない
		<input type="checkbox"/>	全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="checkbox"/>	ほぼ全ての職員が
		<input type="checkbox"/>	職員の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	職員の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="checkbox"/>	ほぼ全ての利用者が
		<input type="checkbox"/>	利用者の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	利用者の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="checkbox"/>	ほぼ全ての家族等が
		<input type="checkbox"/>	家族等の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	家族等の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)
その人らしく、明るく元気で快適な生活を送れる介護を目指しています。

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム アカシヤの家
(ユニット名)	ひなげし
所在地 (県・市町村名)	神奈川県横浜市泉区岡津町2901-1
記入者名 (管理者)	千葉 ひろ子
記入日	平成 19年 7月 15日

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		自治会加入後は、地域の方々より交流を図るため、ホームへ招き食事会、レクリエーションなどを行いたいと思っています。
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		利用者の散歩での交流から、隣近所の方々よりの親切が多く、事業者や利用者から地域へ何らかの寄与を増やそうと取り組んでいます。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	ご近所の高齢の方が、気軽にホームに遊びにこれるような雰囲気づくりに努めています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	グループホームとしての役割、サービスを見直す機会として捉え、評価を朝礼やカンファレンスの課題に取り上げる努力を重ねています。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今月8月末に向けて準備中です。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	自治会に8月加入予定です。		自治会加入後は、自治会の役員の方々と交流を深め、地域の一員として貢献出来ることを探し出していきます。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	公的な機関が主催する研修に参加し、研修内容を朝礼時報告していきます。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待については、朝礼、カンファレンスなどにより、常に話し合い、徹底に努めています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4.理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居者様とご家族の方の思いを聞きながら、ホームで出来ることと出来ないことを説明し、納得された時に契約に至っています。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>日々の生活の中で、入居者の声に耳を傾け、入居者様が落ち着いた生活ができるよう、時にはご家族の協力を仰いでいます。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月1回、入居者の様子とお小遣いの収支報告を郵送でお知らせしています。職員の異動等は、家族会、面会時などでお知らせしています。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族会などの機会に、要望、提案等、自由に発言していただく場を持ち、サービスの改善に努めています。</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>朝礼、カンファレンスで意見交換をしています。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>スタッフが足りずに入居者に迷惑をかけないよう、全員で協力し、職員の確保に努めています。</p>	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の異動等があった場合には、馴染みのあるスタッフが介入し、混乱や問題行動が起きないように、十分な配慮を心がけています。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎日朝礼を行い、理念やケアについての話し合いを行っています。研修の案内を掲示し、研修参加を勧めています。	
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同系列のグループホームの研修を行っています。	
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員同士のコミュニケーションを図るために、カンファレンスや話し合いをする時間を設けています。不安を抱えないよう、随時話しを聞く時間を設けています。	
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	スタッフひとりひとりを信頼し、困った時など適切なアドバイスを送り、抱えている不安を取り除くように努めています。	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居時の面接において、十分に時間を取り、入居者様の今抱えている問題点をより聞きだし、これからどの様に生活していきたいか聞き出すようにしています。	
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居時の面接において、十分に時間を取り、抱えている問題点と、どの様にしたいか要望を聞くように努めています。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時、困っている事、どうしたいのかを聞き出し、地域の社会資源の情報を提出します。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気になら徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ご利用者の要望を把握して、ご家族とも相談しながらきめ細かいケアについて、常にスタッフ同士がカンファレンスを行いながら安心できるよう努めています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者の人生の先輩としての経験、知識を尊重し、新たな活動を見つけ出しています。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時にご家族の方から昔の様子などを聞いて、ケアのサービスをしています。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族会を通し、認知症の理解を深めていただき、面会が遠ざかっている場合にはお手紙、電話などにより、面会に来ていただけるように働きかけています。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	急激な環境の変化を避けつつ、新たな利用者相互の接近による交流を通じて、新たな面を引き出していけるよう努めています。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	ご利用者が自分の殻に閉じこもらず、他の入居者への関心を引き出すような場(食事、レクリエーション等)を積極的に設けています。入居者同士が談話している時は、職員は見守りし、いい争いなどトラブル時には職員が介入し、入居者がくつろげるよう努めています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	諸般の事情によりやむなく退居に至った場合でも、入居者のニーズにかなった行き先やサービスの提供を行っています。またご家族とも連絡し、その後の経緯も把握するよう努めています。		退去後もご本人が、その人らしく生活できるように、必要に応じて情報提供を行う。
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意思を確認し、尊重できるよう努めています。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の面接、面会時にご家族から情報を得ています。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎日のバイタルチェック(体温、血圧、脈拍数)のみでなく、時系列の行動記録、食事状態記録を比較することにより、体調及び心身状態を総合的に把握するようにしています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎日朝礼にて入居者の状態を把握し、変化時にはケアの見直しをしています。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎に更新、状況に合わせ、ケアプランの見直しをしています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者個別の介護記録と申し送り事項、毎朝の朝礼での情報の共有化を行い、実践に活かし、その結果を介護計画の見直しに結びつけています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	系列病院から、月2回認知症専門医の先生に往診をしていただき、意見、アドバイスを受けています。系列病院への外来受診、入院等。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	消防訓練への参加や、地域で行われている美術展を見に行きます。ボランティアの方々に来所していただき、民謡、童謡などを楽しんでいただいています。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他のサービスは利用していません。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	8月末に運営推進委員会開催を予定しており、センター職員に委員を依頼し、今後協力していくこととします。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	肉体的な受診及び精神的な受診を定期的に設定して、これまでのかかりつけ医の流れを受け継いで、適切な医療を受けられる体制を備えています。他にデンタル週1回往診。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	系列病院から月2回、認知症専門医師月2回往診実施、薬の処方を受け、細やかなアドバイス、相談をし、適切なサービスを提供しています。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	利用者をよく知る看護職員との24時間ホットラインを設けており、日常の健康管理や医療活用の支援をしています。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院の際、主治医、ご家族、ケースワーカーと話し合い、通院が長引かないように3週間を目途に連絡を蜜にしています。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方について、利用者の入居時から本人やご家族ならびにかかり付け医等とその都度話し合い、本人の意向を尊重し、全員で方針及び態勢を共有しています。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	変化のポイントを毎朝の朝礼で確認し、出来ること、出来ないことを検討しながら、かかり付け医の支援を取り付けて、今後の変化に備えています。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	すでに介護サービスを受けている場合は、先方のケアマネからケアプランや生活歴、直近の様子等についての情報を入手し、さらにご家族から話を伺って、新しい生活への要望、自宅での生活環境を把握し、住み替えが可能な限りスムーズに運ぶよう心掛けています。又、ご家族のいない入居者については、福祉課の担当者や病院の医師などから情報を集め、入居者本人が自然に過ごせる環境を整えています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>記録の際、トラブル等を記す時は、相手方の固有名詞は使用しないようにしています。必要な情報は朝礼時にスタッフへ送り、情報の共有が出来るようにしています。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>本人が何をしたいのか意向を確かめて、その意向に沿うように支援しています。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>常に主人公は入居者であることをモットーに個々のペースやスタイルを尊重しています。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>歩行や排泄の面で、美容院への外出が難しい方のために、訪問理美容を利用しています。ご本人やご家族の希望を伝え、カット、カラーとさせていただきます。その他の日にカラー等を望まれる方は、理美容院にも協力していただき、行けるようにしています。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>義歯が入ってなく、そしゃくが困難な方は、食材を小さく刻み食事をさせていただきます。自立している方はほとんどいませんが、食前食後のテーブル拭きはご本人が出来る状態の時には行ってもらっています。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>飲酒、喫煙をされる方はいません。糖尿病のために制限も必要なので、要求通りにおやつを差し上げることが難しいのですが、3時のおやつ、お茶の時間にご希望に沿うようにしています。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	介護記録から排泄パターンと習慣を把握して、気持ちよく生活出来るように支援しています。排泄のチェックシートを作って活用しています。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ひとりひとりの体調(バイタルチェック、体調具合、天候、失禁等)に合わせて支援しています。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	外出、レクリエーション後などは、個々の疲れ具合により休息していただきます。安眠の出来ない利用者について、本来のリズム作りを支援し、医師と相談し薬の処方をしていただいています。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ひとりひとりの生活観を参考にして、それぞれの入居者に合った仕事を分配していただいています。又、様々な趣味活動の場を提供して、生き生きとした生活を送れるよう配慮しています。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が出来る方がいないので、ご家族よりお小遣いを預かり対処しています。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	個々の希望に合わせ、戸外に出掛けられるように支援しています。歩行困難の方は、車椅子や車で外出をし、負担のかからないように支援しています。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	計画をしています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が希望すれば、いつでも自由に電話を掛けていただいています。携帯電話を持っている方もいます。ポストまで歩行可能な方は、スタッフ同行で投函しに行くようにしています。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご家族や知人等が気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう、訪問者の得意な分野での協力(詩吟など)をお願いしています。又、お孫さん連れでも気兼ねなくすごせるよう支援しています。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	車椅子乗車の方は、ずっと座りっぱなしにならないように立位をとったり、ソファーへの移動をしていただいています。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関には鍵をかけません。利用者が出掛けるときは後からついて行き、見守り、時には声かけをし、本人の意思を尊重しています。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	ドアを閉めても、小窓から中の様子が見えるようにしています。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	基本的には、本人やご家族の承諾を得た上で、刃物類は一括して事務所で保管しています。その他の物については、入居者の状況に応じて自由を重んじながら、適且安全を確保しています。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	配薬ケースを朝・昼・夜用に分け、各々のケースに服用される方の名前を記入してあります。(誰が薬をセットしても間違わないように)誤配薬防止。窒息、食べ物をのどにつまらせた場合の対処方法を知り、スタッフに伝えあっています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救急蘇生講習の受講。緊急マニュアルを目のつくところに提示。救急車対応時は、同じ職員が同行するのではなく、皆が経験できるようにしています。		朝礼時、緊急時の対応の再確認を行う。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練の実施。 自治会加入後に計画を予定しています。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	現状を把握し、現状から推測されるリスクを、面会時、家族会の機会に説明をしています。		家族との話し合い、現状説明等の記録を残すようにする。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルチェックばかりではなく、職員の明るい声掛けにより、ひとりひとりの体調の変化や異変の早期発見に努め、この情報の伝達、指令系統の確立を毎日の朝礼で行っています。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員で薬の服薬シートを共有しています。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	介護記録とは別に排便チェック表をひとりひとり記録し、便秘の予防と対応に取り組んでいます。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	全職員が口腔ケアの必要性を理解した上で、声掛けのみの人、半介助、全介助の方と、ひとりひとりに合ったケアをしています。口腔ケアは専門医の指導を仰いでいます。		歯ブラシのチェック、コップの清潔を保ち、口腔洗浄液なども使用する。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	きざみ食、トロミ粉等と利用し、食事をしていただいています。水分量に配慮し、コップ1杯飲みきれていない時は、吸い飲み等を利用し、摂取していただいています。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	嘔吐があった場合、処理する際はスタッフ1人だけが係り、周りへの感染を防ぐよう心掛けています。		湿疹が見られた場合は、早急に医師に相談し、悪化するのを未前に防ぐよう取り組む。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	塩素系(ハイター)の消毒をこまめに行い、食器は乾燥機で十分に熱を加え乾燥している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周囲には花を置き、温かな雰囲気作りをしています。ご家族がいつでも来られるように、広い駐車場を確保しています。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間の壁に季節を感じていただけるような飾りつけをしたり、スナップ写真を飾り、入居者に楽しんでいただけるようにしています。又、ご家族にも近況報告として、いつでも見ていただけるようにしています。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間は畳で、長いソファを置き、1人で新聞や週刊誌を読んだり、テレビを見たり出来るようにしています。又、庭にベンチを置き、食べたり出来るようにしています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、馴染みの物、タンス、ベッドなど持ち込まれ、自宅であるという気持ちで生活していただけるように支援しています。		居室スペースに限りがあるので、本人、家族と話し合い、居心地良く、安全を考えた居室作りをしている。
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎朝、全居室の窓を開け、風を通して換気しています。冷房の苦手な方は、空調の風があまり当たらない席へ座っていただいています。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	目の不自由な方には、ご自分の部屋やトイレの手すりが触って確認出来るように配慮しています。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	自己の部屋が認識出来るように、部屋を間違えやすい方の居室は表札を目の高さにしたり、ドアに目印をつけるなどしています。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭へ出て体操をしたり、行事、レクリエーション、季節の野菜の栽培、収穫などを行い、他フロアーの入居者やご家族との交流を図っています。		

・サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		ほぼ全ての利用者の
			利用者の2/3くらいの
			利用者の1/3くらいの
			ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		毎日ある
			数日に1回程度ある
			たまにある
			ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています		ほぼ全ての家族と
			家族の2/3くらいと
			家族の1/3くらいと
			ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="checkbox"/>	ほぼ毎日のように
		<input type="checkbox"/>	数日に1回程度
		<input type="checkbox"/>	たまに
		<input type="checkbox"/>	ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="checkbox"/>	大いに増えている
		<input type="checkbox"/>	少しずつ増えている
		<input type="checkbox"/>	あまり増えていない
		<input type="checkbox"/>	全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="checkbox"/>	ほぼ全ての職員が
		<input type="checkbox"/>	職員の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	職員の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="checkbox"/>	ほぼ全ての利用者が
		<input type="checkbox"/>	利用者の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	利用者の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="checkbox"/>	ほぼ全ての家族等が
		<input type="checkbox"/>	家族等の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	家族等の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)
その人らしく、明るく元気で快適な生活を送れる介護を目指しています。